

90年の歴史を刻む

おおいた市の 水道



大分市水道局

未来へ! 安心を引き継ぐ しなやかな大分の水道

大分市の水道は、4次にわたる拡張事業を進めるなか、ダム建設をはじめとする水資源の確保に努めるとともに、水源の水質変化に対応する水質管理の強化を図りつつ、水質基準を上回る「いつでも、どこでも安心して飲める水」を提供しています。



強靱

危機管理への対応の徹底

自然災害等による被害を最小限にとどめ、
被災した場合であっても、
迅速に復旧できる
しなやかな水道

持続

水道サービスの持続性の確保

給水人口や給水量が減少した
状況においても、
健全かつ安定的な事業運営が
可能な水道

3つの キーワード

安全

安全な水道水の供給

すべてのお客さまが、
いつでもどこでも、安心しておいしく
飲める水道水

もくじ

はじめに	01
水道のあゆみ	02
第4次拡張事業	03
給水区域図	04
主な施設紹介	06
浄水場の紹介	08
大分川ダムについて	13
業務紹介	14
給水・経営の状況	18
機構図・年表	20

大正時代からつづく大分市の水道

水道のあゆみ

創設 (大正14年4月8日 認可)

古来、大分市の生活用水は、そのほとんどを地下水に依存していましたが、水質は鉄分を多く含むなど飲料水には適さず、衛生・防災面、または市制施行直後からの急速な人口増加により、上水道設備の必要性が望まれていました。

大正14年に水源を大分川伏流水として、計画給水人口70,000人、計画1日最大給水量10,500m³の規模で事業に着手しました。

その後、昭和2年に「三芳浄水場」が完成し、大分市の水道が誕生しました。



三芳浄水場(昭和45年廃止)

第1次拡張事業 (昭和26年11月10日 認可)

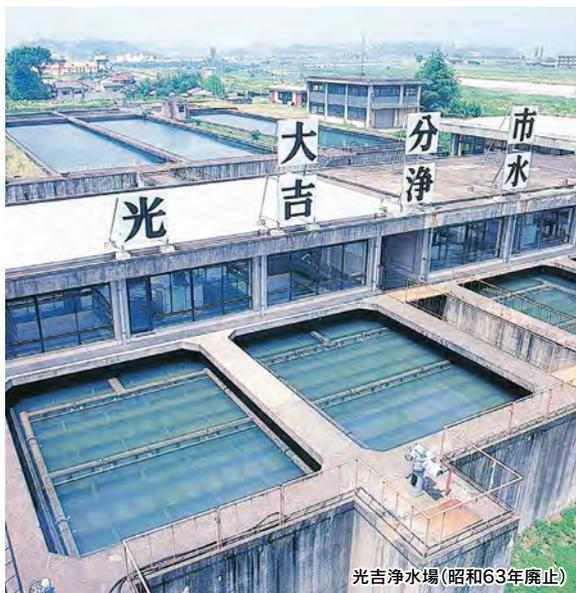
終戦後、疎開者の復帰、引揚者等による人口の増加や、戦災復興で工場・各種施設の建設が相次いだため、給水量は著しく増加しました。

このように伸び続ける給水量に対処するため、昭和26年に計画給水人口100,000人、計画1日最大給水量28,000m³とする拡張工事の認可を受け、「三芳浄水場」の増設を主体とした第1次拡張工事に着手しました。5年間計画でスタートしたこの事業は、当時の財政事情の悪さや、昭和28年の集中豪雨による大水害等のため、工事計画の変更と工期の延長を余儀なくされ、一年あまり遅れて昭和32年に完工しました。

第2次拡張事業 (昭和35年12月28日 認可)

昭和32年に発表された大分・鶴崎臨海工業地帯建設計画によって企業が相次いで進出し、これに伴って人口が増加したため、目標年度を昭和40年とした第1次拡張事業の完工時には給水人口が計画給水人口にせまる勢いでした。

このような中、昭和36年、計画給水人口200,000人、計画1日最大給水量60,000m³の規模で「光吉浄水場」の新設を主体とした第2次拡張事業にとりかかりましたが、資金不足や高度成長時代における諸物価の高騰などの影響を受け、幾度も工事及び事業費の見直しをせざるを得ず、3か年の工期予定が結局は6年後の昭和42年に完工しました。



光吉浄水場(昭和63年廃止)

第3次拡張事業 (昭和41年1月7日 認可)

昭和38年、大分・鶴崎を核とした6市町村の合併による新大分市が誕生し、翌39年には「新産業都市」の指定を受けて工業や商業が飛躍的に発展したため、人口は急激に増加、また市民の生活様式の多様化によって水需要は著しく増加しました。

このため、第2次拡張事業計画の途上で次の拡張事業の必要に迫られ、昭和41年に計画給水人口390,700人、計画1日最大給水量170,500m³の規模で第3次拡張事業に着手し、「光吉浄水場」の増設、大分川水系に「えのくま浄水場」、大野川水系に「横尾浄水場」の建設を主体として昭和51年に完工しました。



古国府浄水場

さらに進化を続ける大分市の水道

第4次拡張事業

昭和61年3月31日 認可
 昭和63年3月31日 変更認可
 平成20年11月17日 変更認可



第4次拡張事業は、大分市水道事業長期計画の一環として、市勢の発展による水需要の増加に対し、水の安定供給を図るため、目標年度を平成3年(昭和66年)度に設定し、老朽化の著しい光吉浄水場を廃止、新たに古国府浄水場の建設を主体とする計画として昭和61年に着手し、昭和63年には古国府浄水場が一部完成、通水となりました。

その後、本拡張事業の水源である大分川ダムの建設基本計画の策定に係るダム使用権設定に伴い、ダム建設に関する基本計画に基づく水配分を受けるため、開発水量108,900m³/日の使用権の設定を申請したことにより、当初計画の見直しを行いました。

平成17年には佐賀関町、野津原町との合併により、水道事業の全部を譲り受けるため変更届を行い、市域全体の均衡ある発展をめざし、水道水の安定供給に努めました。

その後、人口増加が鈍化してきていることや、節水意識の

浸透、長引く不況等による水需要の減少要因もあることから、将来人口の推移や水需要予測を踏まえた事業の見直しが必要となりました。そこで、平成20年、当初の大分川ダム参画により得られる水利権108,900m³/日から35,000m³/日に縮小とすることを主とする計画変更を行い、現在は大分川ダム本体工事が進んでいます。



大分川ダム完成イメージ

大分市を支える配水網

給水区域図

給水区域内のどこへでも、水圧、水量、水質が安全かつ安定的に送水できるように浄水場や配水施設を市内各地に配置しています。

三芳配水場



太平寺配水場



上白木第2ポンプ所



えのくま・古国府浄水場
三芳配水場系

古国府浄水場
太平寺配水場系

古国府浄水場
森岡山配水池系

庄の原第2配水池
庄の原第1配水池

えのくま浄水場
庄の原配水池系

●森岡山配水池

えのくま浄水場

詳細データ/11ページ

今畑減圧水槽



野津原東部浄水場系



七瀬川水管橋



古国府浄水場
石川配水場系

住床減圧水槽



野津原西部第3浄水場系



野津原東部配水池



石川配水場



野津原西部第2浄水場系

4



野津原東部浄水場

詳細データ/12ページ

5



野津原西部第2浄水場

詳細データ/12ページ

1



古国府浄水場

詳細データ/8ページ

2



横尾浄水場

詳細データ/10ページ

馬場ポンプ場



横尾・岩ノ下浄水場
佐賀関配水池系

佐賀関配水池



上野配水池・上野高架水槽



岡第2ポンプ所・
岡配水池・岡高架水槽



横尾浄水場
横尾配水池系

坂ノ市浄水場系



岩ノ下浄水場系

志生木ポンプ場・高架水槽



横尾浄水場
松岡配水池系

横尾浄水場
丹川配水池系

丹川配水池



流通業務団地配水池



松岡配水池



7



坂ノ市浄水場

詳細データ/12ページ

8



岩ノ下浄水場

詳細データ/12ページ

6



野津原西部第3浄水場

詳細データ/12ページ

※大分市水道局では有効水量
30,000m³以上を配水場、
それ未満を配水池としています。



テクノロジーに支えられた効率のよいシステム

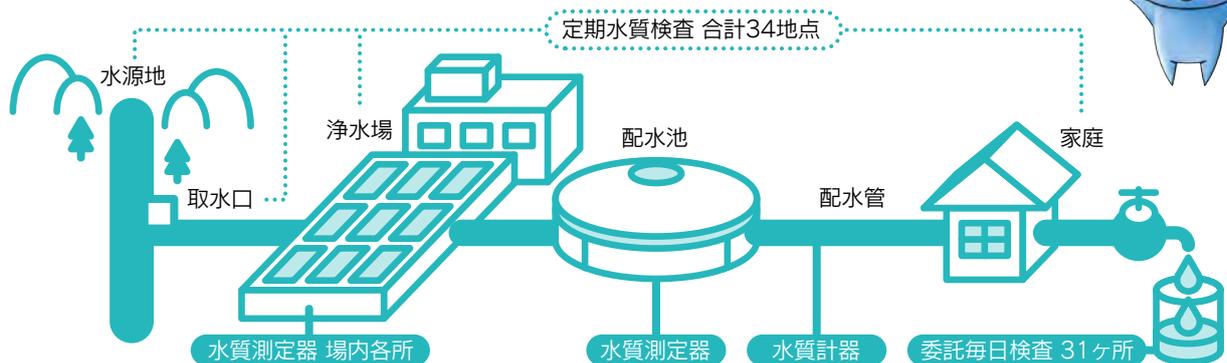
給水の効率化をめざして

古国府浄水場の中央管理室で浄水場、配水池、加圧施設及び給水端末までの各施設を24時間管理、運営できるシステムを導入しています。このシステムにより、取水から給水までの水管理を行い、水資源の有効活用、施設の効率運用、監視性の向上、管理の効率化、使用者に対するサービス向上に努めています。

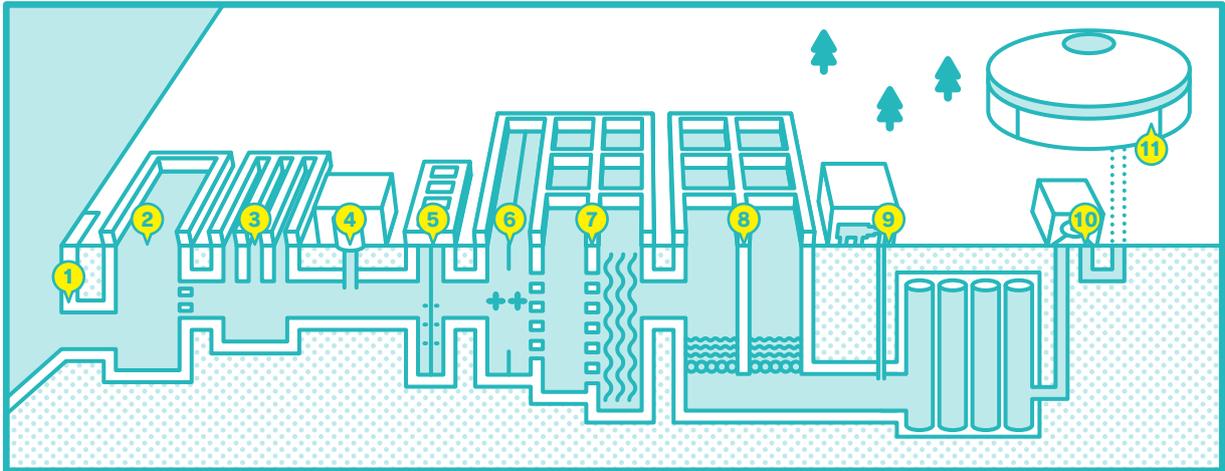


古国府浄水場・中央管理室

いつでも安心して飲める水を



浄水場のしくみ



①取水口

川の水をとりいれる

②沈砂池

土や砂をしずめる

③粉末活性炭接触槽

水においがある時に使い、においをとる

④着水井

取り入れた水の水位や水量を調整する

⑤かくはん池

薬を入れてかきまぜる

⑥フロック形成池

ごみや砂をしずみやすい小さなかたまりにする

⑦沈澱池

ごみや砂をしずめる

⑧ろ過池

砂の層で水をこす、目に見えないごみをとりのぞく

⑨塩素滅菌 浄水池

きれいになった水に塩素を入れて、消毒する

⑩送水ポンプ

山の上の配水池に水を送る

⑪配水池

たくさん水をたくわえ、くばる



より安全な水道水をお届けするために

配水管理システム (古国府浄水場 中央管理室)

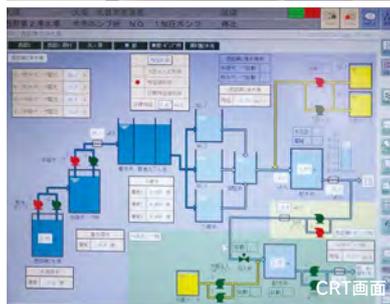
配水管理システムとは、浄水場、配水池、加圧施設及び給水端末までの各施設を管理・運営できるシステムです。

地形の3分の2を山間部が占める大分市には、約90カ所の加圧ポンプ施設が点在しています。加圧ポンプ施設と市内31カ所に設置された圧力監視局、圧力残塩監視局や配水池からの情報により、配水施設及び浄水場の運転管理を行うことで、無駄のない配水量を予測し、水の有効利用を図っています。

また、市内に環状的な配水幹線を整備して、浄水場と有機的に結び付け、地域の需要実態に対応する配水幹線の施設及びライフラインの確保を図っています。



古国府浄水場・中央管理室

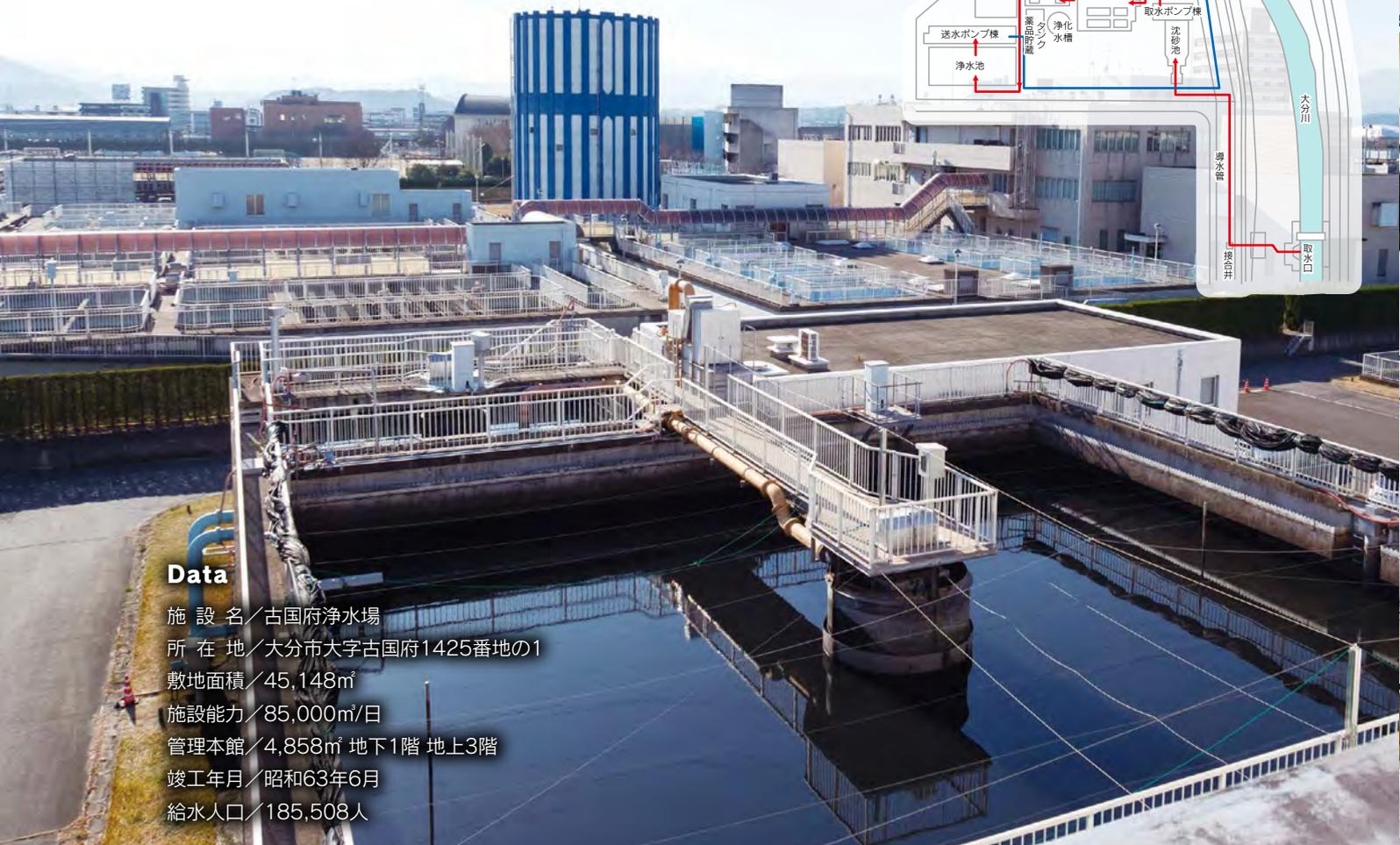
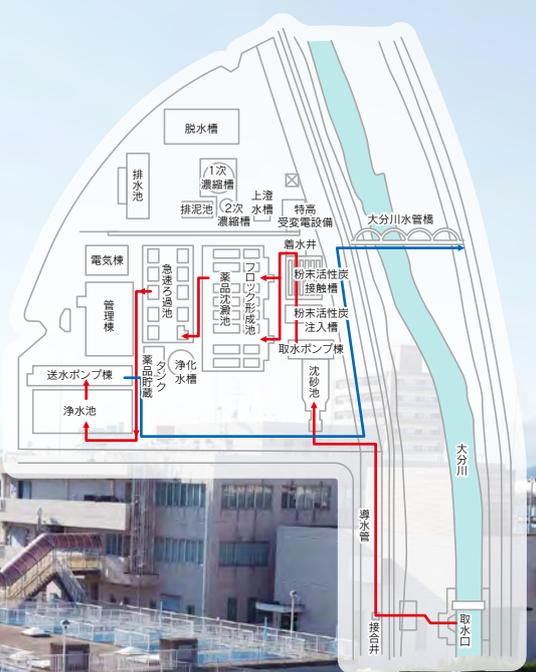


CRT画面



水質測定局(吉野公民館)

古国府 浄水場

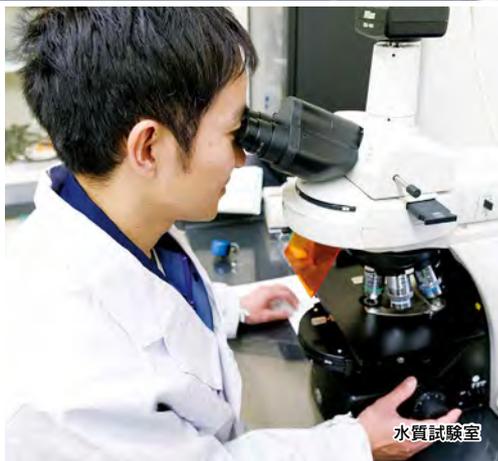


Data

施設名 / 古国府浄水場
 所在地 / 大分市大字古国府1425番地の1
 敷地面積 / 45,148㎡
 施設能力 / 85,000㎡/日
 管理本館 / 4,858㎡ 地下1階 地上3階
 竣工年月 / 昭和63年6月
 給水人口 / 185,508人



洗浄水槽



水質試験室



中央管理室



水管橋



水質試験室



管理棟



フロック形成池



水質試験室



傾斜板式薬品沈澱池



水質計器室



水道資料館



取水ポンプ棟



粉末活性炭接触槽



送水ポンプ設備(送水ポンプ棟B1F)



ろ過池管廊



脱水棟



送水ポンプ設備(送水ポンプ棟B1F)



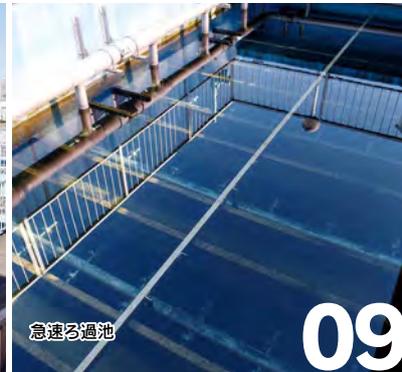
沈砂池



薬品注入設備



急速ろ過池



急速ろ過池

横尾 浄水場

Data

施設名 / 横尾浄水場
所在地 / 大分市大字横尾1655番地の1
敷地面積 / 33,162㎡
施設能力 / 60,000㎡/日
管理本館 / 1,062㎡ 地下1階 地上2階
竣工年月 / 第1期 昭和47年6月 第2期 昭和50年7月
給水人口 / 153,870人

横尾浄水場



フロック形成池



洗浄水槽



中央管理室



着水井



天日乾燥床



急速ろ過池



急速ろ過池

えのくま 浄水場

Data

施設名／えのくま浄水場
所在地／大分市大字荏隈1147番地
敷地面積／21,523㎡
施設能力／58,000㎡/日
管理本館／2階建680㎡
竣工年月／第1期 昭和44年5月 第2期 昭和46年6月
給水人口／111,486人



坂ノ市浄水場



1 2

岩ノ下浄水場



野津原東部浄水場



3 4

野津原西部第2浄水場



Data

- 施設名／坂ノ市浄水場
所在地／大分市大字木田1926番地の1
敷地面積／1,500㎡ 施設能力／2,500㎡/日
竣工年月／昭和37年 給水人口／4,900人
- 施設名／岩ノ下浄水場
所在地／大分市大字木佐上字岩ノ下398
敷地面積／5,389㎡ 施設能力／2,500㎡/日
竣工年月／平成7年 給水人口／9,348人
- 施設名／野津原東部浄水場
所在地／大分市大字野津原字奥牟田1029
敷地面積／699㎡ 施設能力／1,200㎡/日
竣工年月／平成19年3月 給水人口／2,014人
- 施設名／野津原西部第2浄水場
所在地／大分市大字今市字石合原1099-194
敷地面積／2,227㎡ 施設能力／550㎡/日
竣工年月／昭和63年3月 給水人口／592人
- 施設名／野津原西部第3浄水場
所在地／大分市大字上詰字下1741-69
敷地面積／5,662㎡ 施設能力／513㎡/日
竣工年月／平成13年3月 給水人口／614人

野津原西部第3浄水場



5

大分川ダム



大分川水系七瀬川の上流約21kmに位置し、大分川の総合開発の一環をなすものです。洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の取水を目的としています。

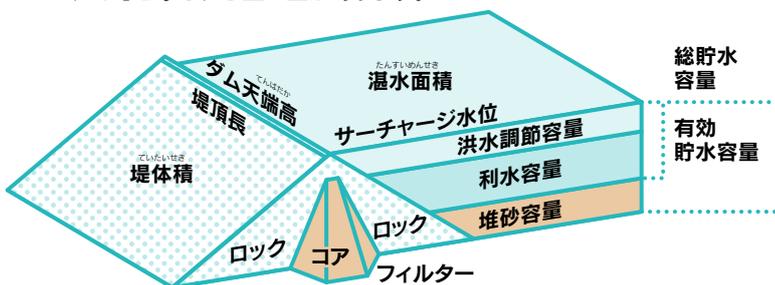


建設中の大分川ダム(平成29年1月)

完成イメージ

ダムの形式:ロックフィルダム

岩石や土を積み上げて作るダムで、中心には水を通しにくい「コア」と呼ばれる土の壁があります。



位置	左岸/大分市大字下原地先 右岸/大分市大字下原地先	ダムの形式	ロックフィルダム
集水面積	38.0km ²	河川名	大分川水系七瀬川
湛水面積	1.0km ²	堤高	約92m
総貯水容量	約24,000千m ³	堤頂長	約500m
有効貯水容量	約22,400千m ³	堤体積	約3,900千m ³
洪水調節容量	約14,300千m ³	ダム天端高	EL 201.6m
利水容量	約8,100千m ³	サーチャージ水位	EL 195.8m
堆砂容量	約1,600千m ³	常時満水位	EL 176.4m

暮らしを支えるライフラインを守る

水道局の働き



給水検査



水道水源クリーンアップ大作戦

水質管理

「より良質で安全な水道水」を市民の皆様にお届けするため、水道法の水質基準はもちろん、独自の水質検査項目を実施するなど、市民の立場で厳しい水質管理を行っています。また、市民の意見を踏まえた「水質検査計画」を策定、事業年度前に公表し、水質管理の強化を図っています。

配水管整備事業

災害に強く、安定した給水ができるよう、配水管を新たに布設する一方、古くなった配水管を新しい管に入れ換えて、漏水や折損事故、水質悪化などを未然に防止しています。市民の皆様へ安全、安心なサービスを提供し続けるため、配水管整備を計画的に実施しています。





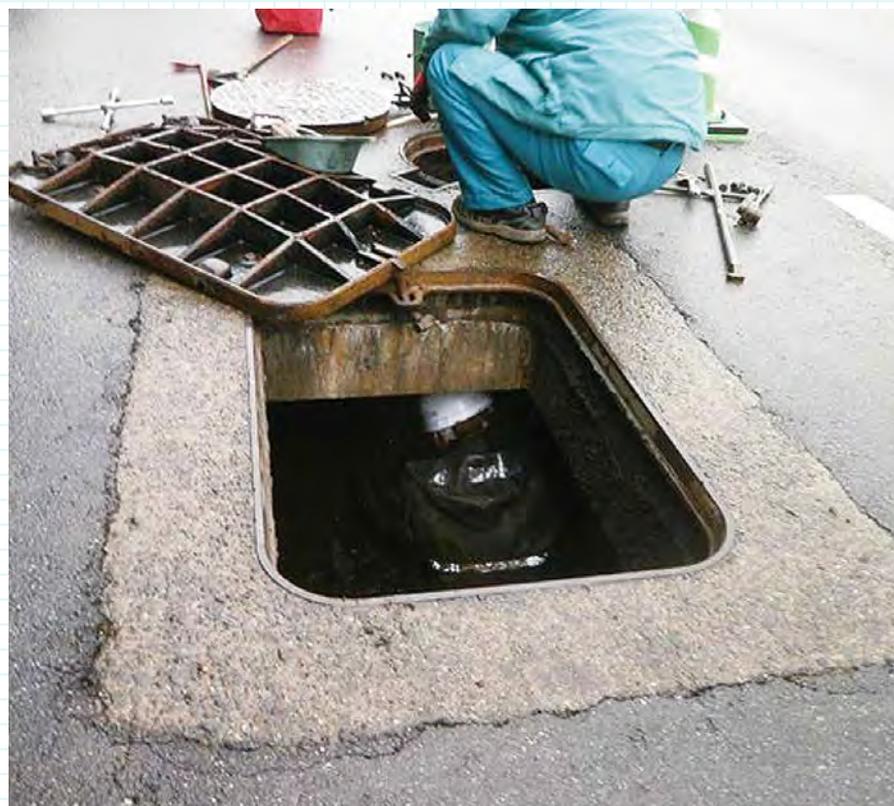
漏水調査

過去の漏水発生件数、調査実績等をもとに的確な漏水調査に努めています。今日の漏水発生状況は、高度経済成長期に布設された管路の老朽化をはじめ、その原因は複雑化し広範囲で発生しています。未然防止を視野に、市民生活に支障をきたすことのないよう計画的で的確な維持管理を目的に調査を行っています。



修繕(配管)

修繕では、点検や漏水調査で明らかになった不具合箇所を計画的に対処、劣化傾向分析に基づく事故の未然防止のための定期交換等を行います。また、通報等による突発的な修繕工事にも対応し、その際に得られる情報をもとに、以後の維持管理計画や更新計画に活用します。





お客様サービス

水道事業はお客さまからの料金収入によって運営されています。お客さまの視点に立ち、ニーズを的確に把握し、お客さまの満足度や利便性の向上を目指しています。

窓口サービス

料金センター、市民課、各支所の窓口それぞれ納入通知書を印刷できるシステムを構築。料金支払いは取扱金融機関での現金支払、口座振替に加えて、コンビニエンスストアや郵便局での取り扱いを開始するなど、お客さまの利便性の向上に努めています。



お客さまとのコミュニケーション

水道事業や水道水について、お客さまのご理解とご協力を得るために、広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等を活用した情報提供を行うとともに、浄水場見学や古国府浄水場一般公開なども行っています。また、お客さまニーズを的確に把握するため、継続的にアンケート調査を実施し、水道事業に反映させています。



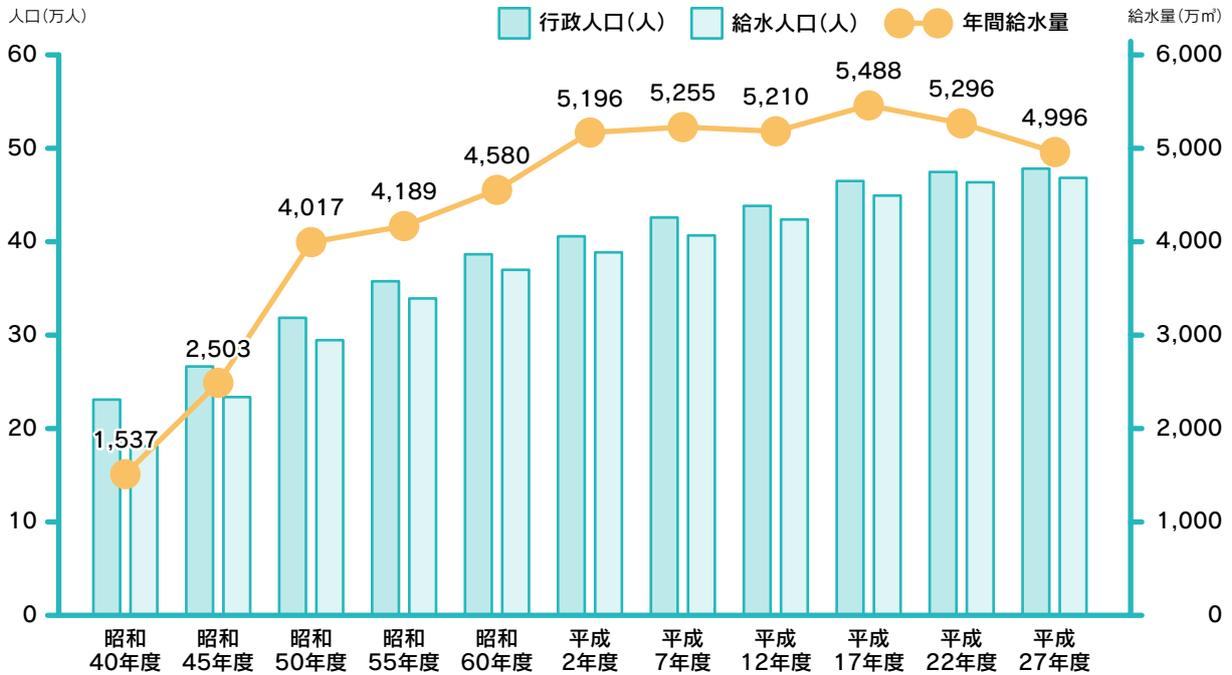
災害対策

耐震診断等に基づき耐震補強を実施したり、災害時における供給用水(飲料水)を確保するため、配水場に緊急遮断弁を設置するなど様々な手法を検討し取り組んでいます。また、危機管理マニュアルを常に検証し、現状に即した改訂を定期的に行い、様々な事象を想定した防災訓練等を実施しています。

給水の現況

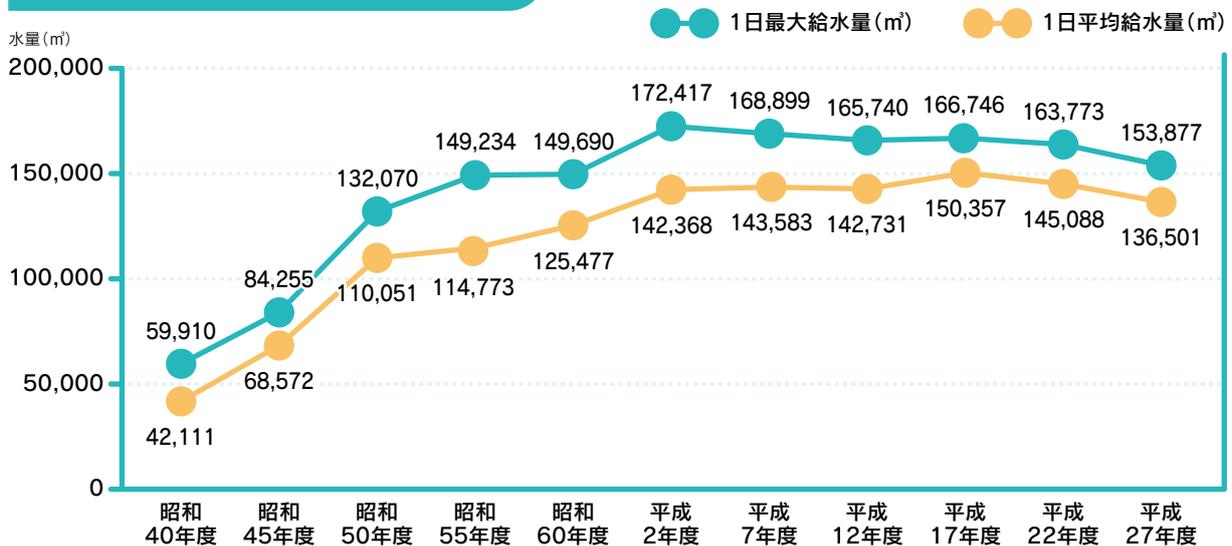


給水人口及び年間給水量の推移



	昭和40年度	昭和45年度	昭和50年度	昭和55年度	昭和60年度	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度
行政人口	230,990	266,456	318,521	357,646	386,557	405,800	425,911	438,346	464,964	474,659	478,241
給水人口	181,181	233,700	294,631	339,265	369,915	388,636	406,687	423,817	449,385	463,626	468,332

1日最大給水量及び1日平均給水量



経営の状況



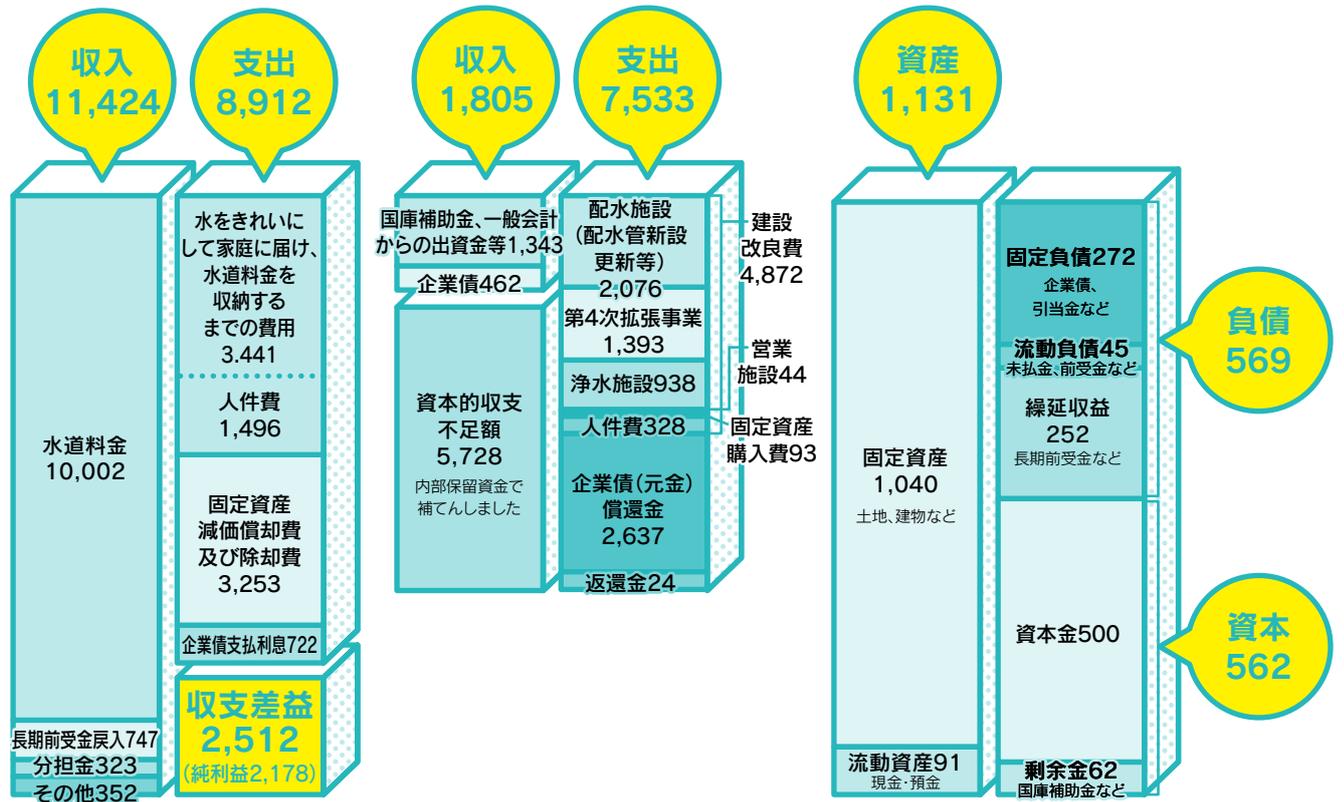
平成27年度決算状況

■ **収益的収支の状況** (単位:百万円)
 ■ **資本的収支の状況** (単位:百万円)
 ■ **貸借対照表** (単位:億円)

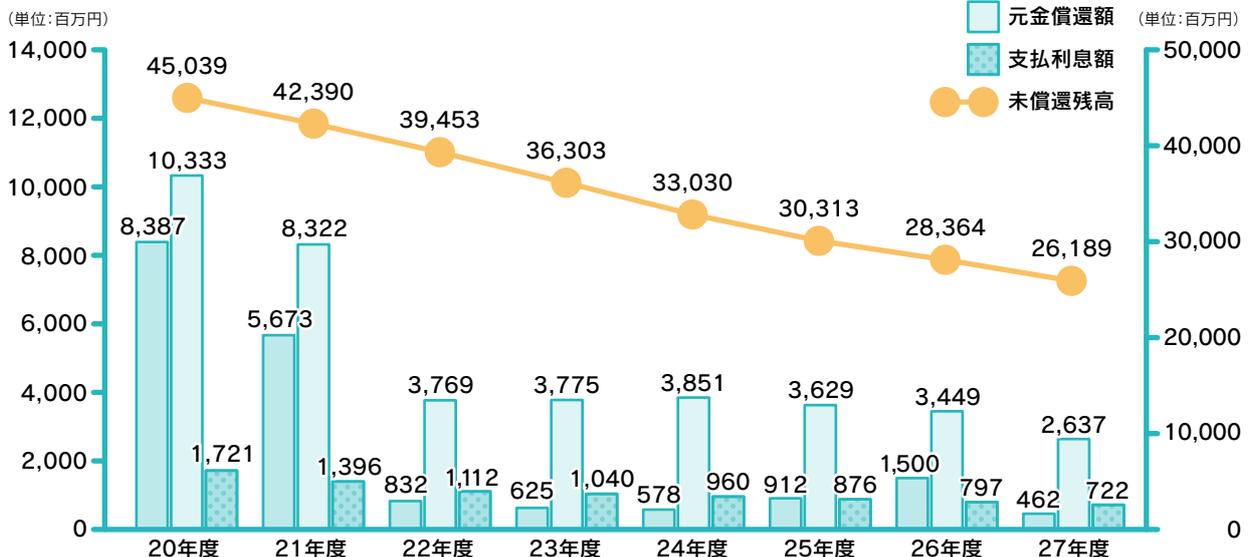
水道施設の維持管理など日常の事業活動に伴う収支

水道施設の建設・改良などの投資にかかる収支

平成28年3月31日



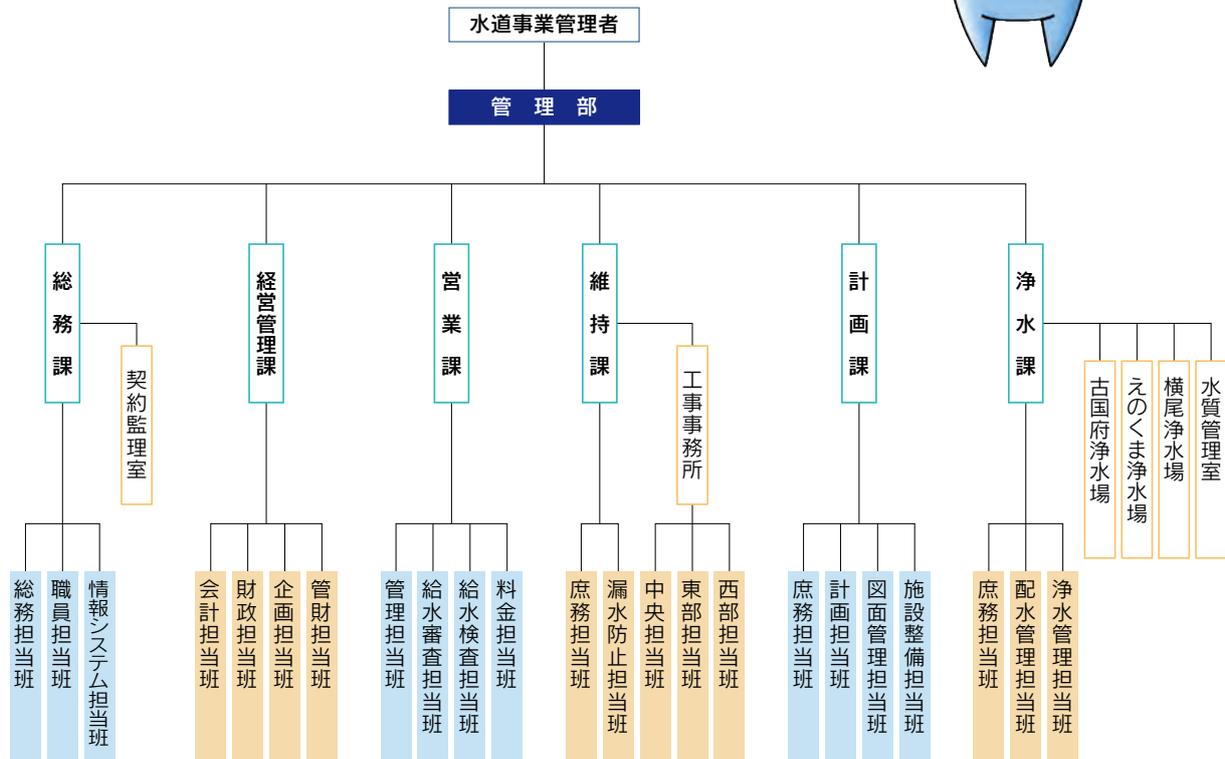
借入金の状況



機構図

平成29年4月1日現在

●1部6課6室23班



総務課 ……人事管理、電算処理

契約監理室 ……工事、物品購入などの入札、契約、検査及び総合調整

経営管理課 ……公営企業経営、水道行政の総合企画、予算の編成・執行の総括、財政計画、局所有財産の管理

営業課 ……水道料金の徴収、給水装置の審査・検査、水道メーター

維持課 ……漏水防止、漏水調査

工事事務所 ……給配水施設の維持管理、貯水槽水道に係る相談

計画課 ……水道事業の総合基本計画、水源の開発、浄水施設・配水施設の新設・改良

浄水課 ……配水施設・小規模浄水場の維持管理、浄水場の総合的運用・調整

浄水場 ……浄水施設・排水処理施設の運転管理・維持管理

水質管理室 ……水質の総合管理・検査・調査・研究、水質の相談・要望

水道局のあゆみ

大正 1912～1926年

- 大正元年頃 水道布設の議起こる
- 13年12月16日 市議会で上水道布設施行の件他を議決
- 12月17日 水道布設認可申請書を内務大臣へ提出
- 14年 4月 8日 水道布設認可(内務省分衛第1号)
- 5月30日 上水道起工式(三芳浄水場構内)

昭和 1926～1989年

- 昭和2年 7月10日 給水開始(給水人口7,589人)
- 7月25日 通水式(三芳浄水場)
- 7年 4月 1日 計量にメーター制採用
- 26年11月10日 第1次拡張事業計画認可(厚生省分衛第197号)
- 5か年計画 目標年度 昭和40年度
- 27年 8月 1日 地方公営企業法制定公布
- 32年 8月 第1次拡張事業工事完工(施設能力28,000m³/日)
- 35年12月28日 第2次拡張事業計画認可(厚生省分衛第926号)
- 3か年計画 目標年度 昭和50年度
- 38年 3月10日 6市町村合併により新大分市発足(人口216,130人)
- 7月31日 光吉浄水場第1期工事完成(施設能力12,000m³/日)
- 39年 7月31日 森岡山配水池(6,000m³)完成
- 40年 5月31日 光吉浄水場第2期工事(20,000m³)完成(施設能力32,000m³/日となる)
- 41年 1月 7日 第3次拡張事業計画認可(厚生省環第12号)
- 8か年計画 目標年度 昭和55年度
- 42年 1月 1日 管理者が常勤特別職となり、職名を水道事業管理者に変更
- 3月31日 森岡山配水池第2期工事完成(容量10,430m³となる)
- 3月 第2次拡張事業工事完工(施設能力60,000m³/日)
- 5月31日 光吉浄水場第3期工事(18,000m³/日)完成(施設能力50,000m³/日となる)
- 44年5月31日 えのくま浄水場第1期工事(施設能力30,000m³/日)完成
- 6月 1日 えのくま浄水場通水開始(同時に畑中水源地・松岡水源地を廃止)
- 6月30日 庄の原第1配水池(2,500m³)完成
- 45年5月31日 三芳浄水場の配水池への改造工事(12,600m³)完成以後、三芳配水池となる
- 6月 1日 第1次配水管整備事業(5か年計画)に着手
- 46年 6月30日 えのくま浄水場第2期工事(28,000m³/日)完成(施設能力58,000m³/日となる)
- 47年 2月 1日 水道料金に連増性採用
- 6月30日 横尾浄水場第1期工事(30,000m³/日)完成
- 50年 6月 1日 第2次配水管整備事業に着手(5か年計画)
- 7月31日 横尾浄水場第2期工事(30,000m³/日)完成(施設能力60,000m³/日となる)
- 51年 3月 1日 水道料金が口別用途別の併用制となる

- 3月 第3次拡張事業工事完工(施設能力170,500m³/日)
- 4月 1日 漏水調査業務委託開始
- 55年 3月20日 水道局新庁舎建設工事完成(城崎町)
- 6月 1日 第3次配水管整備事業に着手(5か年計画)
- 56年 3月10日 庄の原第2配水池(10,000m³)完成
- 58年 3月20日 横尾浄水場排水処理施設整備事業(天日乾燥施設等)完成
- 59年 7月24日 第1回「節水の日」
- 60年 6月 1日 第4次配水管整備事業着手(5か年計画)
- 61年 3月31日 第4次拡張事業計画認可(厚生省生衛第272号)
- 6か年計画 目標年度 平成3年度(認可の主な目的)古国府浄水場の建設等の施設整備計画
- 63年 3月10日 三芳配水場増量工事(15,000m³)完成(容量30,000m³となる)
- 3月31日 第4次拡張事業計画変更認可(厚生省生衛第759号)
- 15か年計画
- 目標年度 昭和81年度(平成18年度)(認可の主な目的)大分川ダム開発水量による施設能力の変更
- 5月 1日 メーター取替業務委託開始
- 6月 古国府浄水場第1期工事完成(施設能力80,000m³/日)
- 6月20日 古国府浄水場一部通水
- 古国府浄水場通水式
- 7月28日 暫定豊水水利権許可(10,000m³/日)
- 12月23日 大分川ダム建設基本計画告示(取水量108,900m³/日)

平成 1989年～

- 平成元年10月 1日 修繕工事等に関する業務委託開始
- 2年 4月 1日 第5次配水管整備事業着手(5か年計画)
- 4年 3月15日 石川配水場完成(36,000m³)
- 5年 9月 3日 台風13号による大雨で道路陥没、岡原で配水管が切断され大南方面で約6千戸が断水、給水のため自衛隊災害派遣出動
- 6年 7月12日 連日の猛暑により、過去最高の173,191m³/日の給水量を記録
- 7月15日 給水開始以来初めて濁水対策本部を設置
- 10月31日 丹川配水池完成(3,000m³)
- 7年 1月20日 阪神淡路大震災による被災者への飲料水確保のため救援隊派遣(延べ30名派遣)
- 4月 1日 第6次配水管整備事業着手(5か年計画)
- 8年 8月30日 七瀬川水管橋完成
- 8月30日 太平寺配水池(30,000m³)完成
- 12月27日 大分市水道事業総合計画策定
- 9年 3月 えのくま浄水場酸汚泥注入設備完成
- 10年 3月10日 水道局庁舎増築工事完成
- 11年 5月 1日 自己電算処理開始、ハンディターミナルシステム運用開始
- 12年 4月 1日 第7次配水管整備事業(～平成16年度)着手
- 3階建て建築物直結給水開始
- 9月29日 松岡配水池(3,600m³)完成
- 13年 4月 2日 暫定豊水水利権許可(23,000m³/日)
- 14年 4月 1日 水道メーター検針業務委託開始

- 9月 2日 第4次拡張事業変更第1回届出(厚労省受理番号第0902019号)
- (届出内容)簡易水道事業(平野)の統合
- 15年 6月 3日 第4次拡張事業変更第2回届出(厚労省受理番号第0603001号)
- (届出内容)簡易水道事業(内植田)の統合
- 16年 8月31日 台風により大野川白滝取水口が閉塞し横尾浄水場への送水が大幅に低下
- 12月27日 第4次拡張事業変更第3回届出(厚労省受理番号第1227001号)
- (届出内容)市町村合併に伴う事業の全部譲り受け
- 17年 1月 1日 佐賀関町・野津原町と合併
- 新大分市発足(人口464,223人)
- 9月10日 台風14号に伴う災害支援として宮崎市に緊急給水隊派遣(延べ24名派遣)
- 18年 4月 1日 直結給水範囲拡大
- 20年 4月 大分市水道事業基本計画策定
- 20年11月17日 第4次拡張事業計画第2回変更認可(厚生労働省発第1117004号)
- (認可の主な目的)簡易水道事業(室生、田ノ浦、一尺屋、野津原東部、野津原中部、野津原西部)の統合
- 取水地点(大分川ダムの既認可水量)の変更
- 浄水方法(大志生木、岩ノ下浄水場)の変更
- 21年 2月 4日 経営評価委員会設置
- 7月15日 佐賀関配水池(2,000m³)完成
- 22年 4月 1日 横尾浄水場及び導水ポンプ所運転管理業務委託開始
- 10月 1日 野津原東部、中部簡易水道を上水道に統合
- 23年 3月14日 東日本大震災に伴う災害支援として、福島県いわき市に全3班、延べ12名を派遣し、応急給水活動を実施
- 25年 4月 1日 えのくま浄水場運転管理業務委託開始
- 4月 1日 三芳配水場と太平寺配水場の緊急時連絡管完成
- 29日 岩ノ下浄水場に渡る施設完成(2,500m³/日)
- 26年 2月16日 大分川ダム本体建設工事起工式
- 27年 2月25日 大分川ダム建設に関する基本計画変更(第3回)の告示(平成31年度完成)
- 3月 大分市水道事業基本計画～大分市水道事業ビジョン～策定
- 4月 1日 料金関連総合業務委託開始
- 室生、田ノ浦、一尺屋、野津原西部簡易水道を上水道に統合
- 5月 大分市水道局水安全計画公表
- 28年 4月15日 熊本地震(4月14日、16日)に伴い災害支援として、熊本市はじり熊本・大分両県の市町村に緊急給水、復旧支援活動を実施(延べ104名派遣)
- 7月 1日 鉛給水管取替工事助成金制度開始
- 29年 2月 1日 古国府浄水場運転管理等業務委託開始





大分市水道局
マスコットキャラクター
みずたん



〒870-0045 大分市城崎町1-5-20
TEL.097-538-1211 FAX.097-535-1241
ホームページアドレス <http://www.city.oita.oita.jp/>

 http://twitter.com/oita_suidou/  <http://www.facebook.com/OitaSuidou>

2017年4月発行